



第5章 流域別施策の基本方向

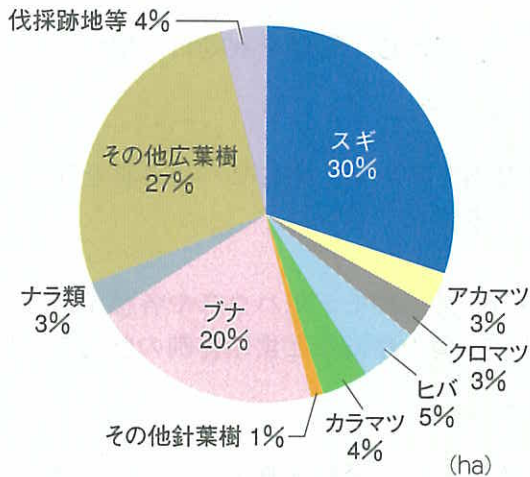
2 津軽流域

位置図



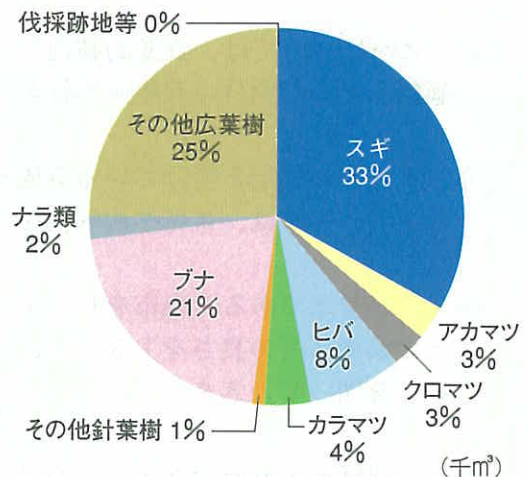
項目	数値
総面積	348,272
森林面積	220,735
森林率	63.4%
国有林面積 (率)	160,292 72.6%
民有林面積 (率)	60,442 27.4%
人工林面積 (率)	84,607 38.3%

樹種別森林面積



樹種	面積
スギ	67,195
アカマツ	6,115
クロマツ	6,115
ヒバ	11,912
カラマツ	8,853
その他針葉樹	2,582
ブナ	43,845
ナラ類	6,537
その他広葉樹	58,530
伐採跡地等	9,051
合計	220,735

樹種別森林蓄積



樹種	面積
スギ	9,932
アカマツ	876
クロマツ	827
ヒバ	2,501
カラマツ	1,102
その他針葉樹	340
ブナ	6,107
ナラ類	647
その他広葉樹	7,371
伐採跡地等	0
合計	29,704

- 当流域には、世界自然遺産の白神山地のほか津軽国定公園や県立自然公園や県民の森など、多様で美しい森林景観が維持されているほか、「県白神山地ビジターセンター」や「県立自然ふれあいセンター」など自然保護や森林環境教育の拠点施設も整備されていることから、これらを活用して森林の役割や大切さの普及啓発を図ります。
- また、これらは、観光資源としての更なる利用が期待されていることから、体験林業などグリーン・ツーリズムの取り組みや産地直売施設の活用などによる山村の活性化を図ります。
- 秋田県境に接している流域南部においては、松くい虫の被害を未然に防ぐため、マツ林の巡回やマツノマダラカミキリの生息・分布状況調査を継続するとともに他樹種への転換を促進します。
- 近年、ヒバの資源量は減少傾向にあることから、北部のヒバ適地においては、抜き伐りを行った後、ヒバの樹下植栽等により複層林への誘導を進め、資源量回復に努めます。
- 急峻な地形が多く、路網密度が低いことなどにより高性能林業機械の導入が最も遅れていることから、森林の機能区分に応じた路網の整備を進め、高性能林業機械の導入を促進します。
- 津軽塗や温湯こけしなど地域の伝統工芸が盛んなことから、工芸品に使われる原材料を確保するために、ウルシやミズキの植栽を進めます。
- 素材の流通については、津軽木材流通センターを中心として、情報技術（IT）活用や直送システムの構築等合理化を推進し、製材品の流通については、今後、スギ製材品の増大が見込まれることから、消費者ニーズに対応した高性能・高品質な製品の供給体制の整備を促進します。
- 県内で最も早く森林ボランティアグループが組織され、活動が盛んな地域であることから、ボランティアグループの協力を得ながら森林整備を進め、都市と山村の交流や自然とのふれあいによる山村の活性化を図ります。